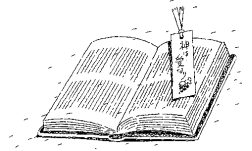


ディボーション質問表



今週のエゼキエル書の箇所は、エルサレム滅亡の預言（4～24章）の部分です。

27日（月）エゼキエル書 22：1～16節 さばきの目的1

1. 1～16節の内容は、エルサレムの罪の告発です。これを特徴付けているのは「血」と「流血」という言葉で、7回用いられています。イスラエルの中にはびこった罪をいくつか見出してください。現代社会とどのように重なりますか？
2. このようなイスラエルも終わりの日には素晴らしい国として回復されます。最悪の状態の中でも希望を失わずにいられることを神に願いましょう。

28日（火）エゼキエル書 22：17～31節 さばきの目的2

1. 22章の中には、「次のような主のことばが私にあった。」（1、17、23節）という言葉があります。このフレーズを元に内容をまとめてみましょう。17～22節は、イスラエルが「かなかず」にたとえられています。
2. 23～31節は、民の指導者層の罪が告発されています。偽りの預言者の特徴を今一度思い出しましょう。どんなものがありますか？
3. 似非預言者の罪は、同時にそれを放置した者たちの罪でもあります。一クリスチャンとして、また国民として何をする義務がありますか？

29日（水）エゼキエル書 23：1～35節 サマリヤとエルサレム1

1. イスラエル王国（サマリヤ）とユダ王国（エルサレム）の主を忘れた有様を、淫らな姉妹にたとえて痛烈に批判しています（1～10節）。北イスラエルはどのような行いをしていましたか（11～20節）？ ユダ王国はどのような振る舞いをしていましたか（21～35節）？
2. これを自分に置き換えて、主を恐れて生きずに目先のことや、利己的に生きるこのような振る舞いをしていないだろうか？ もしくは、日本はこのような動機で外交していないだろうか？ とりなす必要がないだろうか？ 考えてみましょう。

30日（木）エゼキエル書 23：36～49節 サマリヤとエルサレム2

1. 35節までに書かれている彼らの振る舞いや動機によって生きる結末はどのようなものだと言われているか（36～49節）？
2. 主はなぜ彼らにそのような悲劇が起こるのを許されたのでしょうか（48～49節）？

31日（金）エゼキエル書 24：1～14節 さびた鍋のたとえ

この箇所はイスラエルの最後の日を預言するものです。わたしたちには最後があること、審判の日があることを思い出させ、最後に向けて如何に生きるべきか身を引き締めさせてくれます。

1. 1～14節を読んで、自分を吟味してみましょう。火に掛けられた鍋は、主の裁きを表しています。そして入れられる肉の部位は、イスラエルのすべての位の人々を指しています。また、さびは彼らの罪の行いを指します。
2. 各肉片はどうなりますか（6節）？ さびは落ちますか（12節）？ よく煮てさびをとろうとしてどうなりますか？ またこの裁きから逃れる者はいるでしょうか（14節）？

1日（土）エゼキエル書 24：15～27節 エゼキエルの妻の死

1. ここには、これまで触れられなかったエゼキエルの家族のことが語られています。しかしそれは、彼の妻の死を巡ったことです。16～17節ではどのような振る舞いをするように述べていますか（当時の葬儀の際に行われた習慣の間逆が指示されています）？
2. 25～27節では、主のさばきの預言をしたエゼキエルの働きを締めくくる内容です。26節の「その日」とはありえないと一般的に考えられていたことが事実起こる日を指しています。

***今週の箇所から3日以内に始められ、具体的、実現可能で計測することができる計画を聞いてみましょう。**